

イサク事業所の屋上に設置された太陽光パネル。宇治市伊勢田町毛語



屋根に「おひさま発電所」

宇治市伊勢田町の障害者就労支援施設「イサク事業所」に、太陽光発電施設「イサクおひさま発電所」が完成し、20日、「点灯式」があった。市民と共同で太陽光発電施設を設置を進める認定NPO法人「きようとグリーンファンド」と、同事業所を運営する社会福祉法人同胞会の共同事業。同ファンドによる「おひさま発電所」は、これが府内18カ所目で、障害者施設では初めて。

約1・3坪×1坪の太陽光パネル63枚を、3階建ての同施設の屋上に設置した。設備容量は約10キロワットで全量を売電する。設置費用約480万円は、同ファンドの「おひさま基金」と市民の寄付でまかなう。

イサク事業所は2012年7月にできた。近隣の田

宇治の障害者施設にパネル63枚

畑などで農薬や化学肥料を使わずに野菜を作り、加工したのも含め、事業所1階にある、カフェも併設した「床の宿Risoletto（リゴレット）」で販売している。

同ファンド事務局長の大西啓子さんは「イサク事業所が環境に配慮した施設になり、地域へ発信していくことをサポートしていきたい」と話した。同胞会「同胞の家」施設長の石崎蓉子さんは「食の部分だけでなく、環境に優しい事業所として、さらに地域貢献できたら」としている。

寄付（1口3千円）を引き続き募っている。問い合わせはきようとグリーンファンド（0755・352・9150、火く金曜の午後1〜5時）へ。